

# 平成9年度通常総会議案について

平成9年度通常総会は去る4月25日に開催され、以下の総会議案がすべて原案どおり承認されましたのでお知らせします。

## 平成8年度事業報告 (第1号議案)

### I. 事業の概要

#### 1. 研究発表会

(1) 5月15日、16日の両日、小樽商科大学において、第79回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ 「インフラとしてのOR」
- ・特別講演 (一般公開)

##### 1) 生物進化と情報

山田家正 (小樽商科大学 学長)

##### 2) 大規模激甚災害に対する広域防災について

山田郁夫 (株)三菱総合研究所 常務取締役)

- ・発表件数 153件
- 一般発表 137件
- ペーパーフェア 11件 (内部会報告 11件)
- 特別セッション 5件
- ・参加者数 298名

また、17日には北海道製罐(株)小樽工場、札幌市篠路清掃工場・ゴミ資源化工場、サッポロビール(株)北海道工場を見学した。

(2) 11月7、8日の両日、大阪工大摂南大学創立60周年記念館において、第80回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ 「変革のOR」
- ・特別講演 (一般公開)

##### 1) 構造変革の中の企業のあり方

三好俊夫 (松下電工(株) 会長)

- 2) OR万華鏡 刀根 薫 (OR学会会長、埼玉大学教授)
- ・発表件数 106件
- 一般発表 103件
- 招待発表 2件
- ペーパーフェア 1件 (内部会報告 1件)

・参加者数 301名  
また、5日には松下電工(株)、松下電器産業(株)技術館を見学した。

#### 2. シンポジウム

(1) 5月14日、小樽商科大学において、第35回シンポジウム「マルチメディアとその活用」を開催した。講演5件。参加者は40名であった。

(2) 11月6日、大阪工大摂南大学創立60周年記念館において、第36回シンポジウム「変革期の経営環境と意思決定」を開催した。発表件数3件。参加者は109名であった。

#### 3. 特設研究部会 (数理計画法研究会)

(主査：茨木俊秀 (京都大学) 幹事：森戸晋 (早稲田大学)、田口東 (中央大学)、茨木智 (京都大学)、石井博昭 (大阪大学)、加藤直樹 (神戸商科大学)、福島雅夫 (京都大学)、矢部博 (東京理科大学)、山本芳嗣 (筑波大学) メンバー：30名)

月例研究会 (7回・東京)、RAMPシンポジウム、RAMPセミナー等の開催を通じて数理計画法の理論と応用に関する研究普及活動を行った。また、会の運営にあたっては、若手研究者の育成のため、特別な配慮を行った。

#### 4. 研究部会・研究グループ

研究部会・研究グループ終了/中間報告

- ◎印 終了を示す
- \*印 研究グループを示す
- ☆印 常設部会を示す

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内容
☆待ち行列	町原文明 (東京電機大学) 小沢利久 (N T T)	26名	9回	待ち行列網等の理論解析やそれら理論の通信システム等への応用に関する最新トピック (毎回2回ずつ) をその専門家に報告してもらい、議論・意見交換を行った。
☆OR/MSとシステム・マネジメント	太田敏澄 (電気通信大学) 難波和明 (東京理科大学)	30名	5回	高度情報化時代におけるOR/MSの活用方策を探り企業経営やシステムの企画・管理・運営に生かすため、経営理念をはじめ、情報技術の活用実態についての知見を収集し、概念的、理論的、方策的検討を行っている。
◎リエンジニアリング	梅沢豊 (東京大学) 山下達哉 (富士短期大学)	15名	6回	最近の日本におけるリエンジニアリングの事例を広範に調査研究し、「日本的経営」慣行の中、業務改革をいかに推進すればよいかを多角的に検討した。また、業務プロセスを変革するうえで、ORの方法の活用可能性を探究した。

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内 容
◎ファイナンスのOR	古川 浩一 (東京工業大学) 枇々木 規雄 (慶應義塾大学)	22名	8回	ORの問題としてファイナンス理論を捉え、理論、実践の両方で研究成果を挙げるように部会活動を行っている。今年度も、オプション評価理論、株式分析、ポートフォリオ選択問題などの研究分野に対して15件の研究成果が発表された。
◎評価のOR	刀根 薫 (埼玉大学) 上田 徹 (成蹊大学)	10名	7回	7回の定例部会のはかに4回の臨時勉強会を開催し、DEA・AHPを中心に理論と応用の両面から議論した。特に4月はチュートリアル講演1月、2月は学生の発表会として学生、初学者の参加を促した。
◎ORリテラシー	高井 英造 (静岡大学) 垣花 京子 (家政学院短大)	18名	9回	部会発足当時に検討された、一般的素養としてのORリテラシーの教育的な効果とその方法論などの議論をふまえて、具体的な内容を明示化し、実際的な効果を示して今後の検討と発展につなげるため、従来の数的手法の解説を中心としたテキストと異なる文科系学生のためのテキスト基本構想をまとめ、メンバーにより執筆中である。
◎意思決定とOR	菊田 健作 (富山大学) 中島 恭一 (富山県立大学)	20名	5回	ORに関する広い分野での研究交流を行い、11月には部会のまとめの研究発表会を開き12件の発表があった。北陸地方を中心としたOR関係の研究交流の場としても一定の成果を上げた。
離散系シミュレーション	中野 一夫 (構造計画研究所) 森戸 晋 (早稲田大学)	26名	4回	あらゆるシステムの分析手法として有効性を発揮している離散系シミュレーション手法を特に応用面から捉え、モデル化の問題点、分析効果、市販されている離散系シミュレーション用のソフトウェア等を調査、研究していこうとするもの。
高校生のためのOR	若山 邦紘 (法政大学) 田口 東 (中央大学)	11名	7回	高校生を対象として、数理的な目を通して問題解決をはかるORの考え方が発揮された題材を、分野を問わず多数作成し、課外の読み物、数学や情報処理の授業の例題として使われるテキストの作成を目指す。
COMのための生産計画・スケジューリング	村松 健児 (東海大学) 西岡 靖之 (東京理科大学)	18名	10回	COMという製造業の全体的最適化をめざすキーコンセプトのもと、スケジューリングの理論と実践との橋渡しの場を提供しており、話題性のあるテーマについて講師を招き、月1回徹底的な議論をしている。
広域インフラストラクチャー計画に関するOR	高森 寛 (青山学院大学) 栗田 治 (慶應義塾大学)	14名	11回	国などの1つの行政地域圏を超えて形成される公共財、経済・生活基盤の計画と実施にかかわる諸問題へのOR的な接近法を研究する。実施にかかわる費用負担と資本調達共通の便益、コンフリクトの調整、合意形成、経済性とそのフィージビリティの評価などに関して、諸概念の整理、理論的モデル、およびオペレーショナルなモデルの開発を試みる。
最適化理論とその応用	石井 博昭 (大阪大学) 新森 修一 (鹿児島大学)	23名	5回	数理計画法関連の最近の理論的研究の情報交換とその応用の実際を調査あるいは推進するのを目的とし、従来から続いている数少ない関西支部をメインの活動範囲とする本部の研究會であり、関西支部での数理計画の研究の底上げに大いに役立っている。
マーケティング・モデル	守口 剛 (流通経済研究所) 寺崎 竜雄 (日本交通公社)	13名	8回	ホーム・スキャン・パネル・データを利用し、データ分析、モデル構築のコンペを行った。11チームが参加し、毎回の部会でそれぞれのチームから研究成果が報告され、それらの研究成果をもとにマーケティング分野におけるOR的手法の可能性と有効性および活用のための課題等について議論した。
オープンネットワークと情報活用	勅使河原可海 (創価大学) 松井 啓之 (東京工業大学)	21名	9回	定期的な研究会を通じて、自由に情報にアクセスできるユーティリティとしてオープンネットワーク(インターネット等)とそれを利用した情報活用が、個人、企業、産業界に及ぼす影響について明らかにし、今後の利用動向の展望および理論的枠組みの構築を目指す。
グローバル政策	片山 隆仁 (防衛庁) 中井 史郎 (日本ヒューレット・パカード)	20名	9回	各種文献より抽出した政策関連記事に基づき具体的事例研究を積み重ねたが、今後は、特定の重要問題について、政治的・経済的・社会的因果関係の分析を進め、ある程度のモデル化を図る方向で運営する。
ファジィ動的計画法	小田中 敏男 (北海道情報大学) 蔵野 正美 (千葉大学)	15名	9回	主題目は「知的システィと革新的計算法」である。人間はどのようにして情報を要約し圧縮するのであろうか。これが知的システィである。また革新的計算法とは低精度の計算しか必要とせぬソフトコンピューティングのことである。
◎*自動車市場の計量分析	国澤 清典 上田 恭嗣 (東京国際大学)			
*高度情報化社会における交通・流通	忍田 和良 (朝日大学) 野末 尚次 (鉄道総合技術研究所)	10名	9回	流通業の現状を調査するとともに、情報化をベースとした交通・物流業の経営戦略の新しい局面に関して調査検討を行い、現状認識と基本的な問題点の把握ができた。

部 会 名	主査/幹事	メンバー	開 催	内 容
◎*電力OR	鈴木 道夫 (電力中央研究所) 大屋 隆生 (電力中央研究所)	16名	3回	電気事業とその周辺の実務家、研究者が集まり、規制緩和と電気事業経営、環境問題、デマンドサイドマネジメント、電力需要予測など電気事業の抱える問題への新しいOR理論手法および実施に関する研究を行う。
*イノベーション	上田 亀之助 (上田イノベーション研究所) 石井 允夫 (長野計器製作所)	9名	10回	この世の中では全てのモノゴトがお互いに関わり合いながら絶えず変化しています。我々はこれに対応して常に「日に新た、また日に新た」とイノベーションに励み、適応して行かなければなりません。
*組合せ最適化	片岡 靖詞 (防衛大学校) 繁野 麻衣子 (東京工業大学)	10名	6回	若手研究者を中心に一同に会し組合せ最適化に関する理論や応用について討議する。各回毎のテーマは、活発に研究を行っている学生や若手研究者が、ゼミ形式で提示する。
*ORソフトウェア	八巻 直一 (静岡大学) 宮田 雅智 (青山学院女子短大)	20名	1回	ORソフトウェアの普及についてのシンポジウムの企画作りを主たる活動とした。その結果、EXCELソルバなどの入手しやすいORソフトウェアの利用事例をテーマとし、平成9年度中に開催を企画することとなった。
*環境問題	小池 清 (キックス総研) 樫尾 博 (東京ガス)	10名	1回	最近の環境問題は身近な公害、ゴミ問題から地球温暖化、酸性雨、エネルギー問題等々幅広い社会問題である。その解決のために個人、行政、企業は何をなすべきなのか。まず現状認識から研究会はスタートしている。

## 5. 普及活動

### (1) 定例講演会

開催年月	テーマ	講師	参加人数	開催地区
8年5月	VR(バーチャルリアリティ)の現状とその応用	三浦 孝雄	19名	九州
9年1月	物流問題の現状と動向 ～コストダウンとIT活用～	園川 隆夫	30名	関西

### (2) ORセミナー

#### ・第1回

「離散系シミュレーションの応用」を平成8年7月19日、東京ガス(株)本社で開催した。参加者は26名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題 目	講 師
離散系シミュレーションの基礎技術と利用状況	梅田 茂樹 (武蔵大学)
通信サービス開通業務の効率化手法	今中 秀郎 (日本電信電話)
オープン分散型監視制御システム構築における離散系シミュレーションの適用	堀池 聡 (三菱電機)
抜本的な設備・生産方式の改善に向けたシミュレーション技術の活用	中川 義之 (住友金属工業)

#### ・第2回

「経営効率性の新しい評価法—DEA(包絡分析法)」を平成9年1月24日、東京ガス(株)本社で開催した。参加者は43名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題 目	講 師
DEA法の概要	刀根 薫 (埼玉大学)

題 目	講 師
企業体評価のための多変量解析法の応用	上田 徹 (成蹊大学)
DEA関連手法を用いた事業体分析の事例研究	山田 善靖 (東京理科大学)
債券市場におけるDEA分析	清水 康司 (青山学院大学)
意思決定手法としてのDEAの応用	住田 友文 (電気通信大学)

### (3) OR企業サロン

今年度も「業務革新—(リエンジニアリング)とトップのリーダーシップ」を統一テーマとし、梅沢豊(東京大学経済学部)をコーディネータとして開催した。今日的な経営の重要課題に関する話題を提供し、あわせて参加者相互の交流を深めることによって、大きな成果を収めた。(参加者延187人)

開催月日	テーマとゲストスピーカー	参加者
8.10.9	顧客ニーズに応えるロジスティクスと情報ネットワーク革新 ○(株)菱食 代表取締役社長 廣田 正	87名
9.4.24	私の行政改革—三重県政の業務改革(リエンジニアリング)— ○三重県 知事 北川正恭	100名

## 6. 刊行物

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol.41 No.3からVol.42 No.2まで12号(本文722ページ)を発行した。各号は特集を主とし、他トップの視点、論文・事例研究、論文・研究レポート、教養講座、解説、学生論文賞受賞論文要約、情報の窓、研究部会報告等を掲載した。

(2) 論文誌(Journal of the Operations Research Society of

Japan) Vol. 39 No.1からVol. 39 No.4 まで(630ページ)を発行した。本年度の投稿論文は87編(再投稿31編を含む)で、掲載論文は41編であった。

(3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集他(略)

## 7. 40周年記念事業

平成9年5月に迎える創立40周年の記念事業基本計画を策定し、記念事業企画推進委員会を発足させると共に、その下に会計委員会・実行委員会・長期計画委員会を設置。各委員会はそれぞれ既に活動を開始し、事業計画の実現に努めている。

## 8. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力

(1) 日本学術会議関連

日本学術会議経営工学研究連絡委員会(経営工学研連)の構成学会として引き続き委員を派遣し、それらの活動に協力。6月28日には経営工学研連並びに関連7学会の共催による第12回シンポジウムを日本学術会議講堂において開催。115名の参加をみた。(以下略)

## 9. 受託研究活動

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「広域インフラストラクチャー計画に関するOR」研究部会を窓口を実施した。

## 10. 国際協力

(1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) を通じて、各国のOR学会との交流、協

力を図った。特にカナダ・バンクーバー市で開催された第14回IFORS大会へ視察団を派遣した。

(2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の副会長選出国として、また、第3回APORS国際会議開催国として、アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会の情報交換に協力した。

(3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORのVol. 47, No. 1~No. 6の国内頒布に協力した。

(4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。

(5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

## 11. 他学協会との交流

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・第9回信頼性シンポジウム(信頼性学会)
- ・「情報型組織のためのシステム方法論」'96 9月シンポジウム(経営情報学会)
- ・品質国際会議 1996—横浜(日本科学技術連盟)
- ・産業構造の転換と情報処理教育シンポジウム(情報処理学会)
- ・第233回講習会「情報技術とハイテク医療」(精密工学会)
- ・第15回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス(日本シミュレーション学会)
- ・生産スケジューリング・シンポジウム(日本経営工学会他)
- ・第4回ソフトコンピューティングに関する国際会議(国際ファジィシステム学会他)
- ・'96ロジスティクス・ソフトウェア全国会議(日本ロジスティクスシステム協会)(その他略)

## 12. 支部活動 各支部ごとに次のとおり活動した。

### 支 部 活 動 報 告

	北 海 道	東 北	中 部	関 西	中国・四国	九 州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会 3回	支部総会 1回 運営委員会 4回	支部総会 1回 役員会 1回 幹事会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回
研究会		研究会 1回	研究会 5回	研究会 31回	研究会 8回	研究会 2回
講演会	講演会 2回	講演会 1回	講演会 1回	研究講演会 4回 定例講演会 1回 記念講演会 1回	講演会 6回 シンポジウム 2回	講演会 3回
出版			支部ニュース 9回 アブストラクト集 1回 総会議案 1回	支部 News letter 4回		支部ニュース 3回
その他	他学会協賛シンポジウム 1回 OR企業サロン共催 1回		3学会共催研究発表会 1回 研究発表会 1回 見学会 1回		見学会 1回	

## 13. 表彰

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞  
第25回文献賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
- ・ A Nonpreemptive Priority MAP/G/1 Queue with Two Classes of Customers  
Journal of the Operations Research Society of Japan vol.39, No.2  
滝根哲也 (大阪大学)
  - ・ Superlinear convergence of the affine scaling algorithm  
Mathematical Programming vol.75, No.1  
土谷 隆 (統計数理研究所)
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞  
第22回普及賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
- イ. 本告光男 (愛知工業大学教授)
  - ロ. 渡辺 浩 (筑波大学名誉教授)
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞  
第21回実施賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
- 秩父小野田(株) 代表取締役社長 平賀一次
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞  
第17回事例研究奨励賞の選考および第12回事例研究奨励賞ソフトウェア部門の選考を行い、下記のとおり決定した。
- 第17回事例研究奨励賞
- ・ 生産・輸送計画モデルとその感度分析情報の戦略的利用  
オペレーションズ・リサーチVol.41, No.8  
相沢健実, 河野高洋 (秩父小野田(株)),  
森 雅夫 (東京工業大学)
  - ・ 我が国におけるナース・スケジューリング問題  
オペレーションズ・リサーチVol.41, No.8  
池上敦子, 丹羽 明, 大倉元宏 (成蹊大学)  
第12回事例研究奨励賞ソフトウェア部門
  - ・ 該当なし
- (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞  
第14回学生論文賞の選考を行い、下記のとおり決定し、授賞を行った。
- ・ ビル間高架連絡通路の最適配置  
井関一隆 (慶應義塾大学・修士論文)
  - ・ Data Analysis and Modeling of ATM Coded Video Traffic with Scene Changes  
蔵杉俊康 (東京工業大学・修士論文)
  - ・ AGVシステムの理論的解析  
佐々木淳 (豊橋技術科学大学・修士論文)
  - ・ 海難事故件数の統計モデルと巡視船の配備運用の最適化に関する研究  
西本和博 (埼玉大学・修士論文)

## II 処務の概要

### 1. 役員等に関する事項

理事	非常勤	監事	非常勤
定数：12人から16人 (現在：16人)		定数：2人 (現在：2人)	
任期：2年		任期：2年	

## 2. 職員に関する事項 (略)

## 3. 会議に関する事項

### (1) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
8.4.19	1. 平成7年度事業報告の件 2. 平成7年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成8年度事業計画の件 4. 平成8年度予算の件 5. 平成8年度・9年度役員選任の件 6. 平成8年度・9年度評議員選任の件 学会賞の発表と表彰・新フェローの紹介	承認 " " " " "

### (2) 理事会 (略)

### (3) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	結果
9.4.10	1. 平成8年度事業報告の件 2. 平成8年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成9年度事業計画の件 4. 平成9年度収支予算の件 5. 平成9年度・10年度役員候補者選任の件 6. 名誉会員推薦の件	承認 " " " " "

### (4) 支部長会議 (略)

### (5) 委員会・幹事会

・ 常設委員会			
OR誌編集委員会	13回	国際委員会	1回
研究普及委員会	14回	表彰委員会	5回
JORSJ編集委員会	3回	IAOR委員会	4回
・ その他の委員会・幹事会		財政問題検討委員会	3回
庶務幹事会	8回	副会長会議	3回
フェロー会議	1回	丸の内OR企画委員会	1回
研究部会主査会議	1回	40周年記念事業準備委員会	29回
OA化委員会	2回		
会計幹事会	1回		

## 4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

## 5. 契約に関する事項

(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団より、研究委託を受け、同財団と研究委託契約を締結した。

## 6. 寄付金に関する事項

- (1) 春季研究発表会開催に際し、北海道電力(15万円)、北海道拓殖銀行(10万円)、共和コンクリート工業(5万円)、光合金製作所(10万円)からそれぞれ助成金の交付を受けた。
- (2) 創立40周年記念事業関係費として、東北電力(95万円)及びNTTデータ(95万円)からそれぞれ助成金の交付を受けた。

7. 主務官庁の指示に関する事項

該当なし

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員		合計	
				A種	B種		
平成8年2月末日	16	2,658	275	138(165)	41(41)	3,128	
平成8年度	入会	87	157	9(9)		253	
	移行	学→正	57	△57			
		正→学	△2	2			
		正→名					
	退会	2	132	15	17(18)	7(7)	173

除名		58	21			79
復活		7	1			8
純増減	△2	△41	67	△8(△9)	△7△(7)	9
平成9年2月末日	14	2,617	342	130(156)	34(34)	3,137

( ) は口数

(2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	
				A種	B種
本部	13	1,551	242	83(106)	20(20)
北海道		82	10	4(4)	
東北		96	5	7(8)	1(1)
中部	1	228	11	11(11)	1(1)
関西		371	49	16(16)	6(6)
中国・四国		152	9	4(6)	3(3)
九州		137	16	5(5)	3(3)
合計	14	2,617	342	130(156)	34(34)

( ) は口数

(第2号議案)

平成8年度収支計算書

収支計算書総括表

平成8年3月1日から平成9年2月28日まで

(単位：円)

1 収入の部					
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計		
			数理計画法研究会	I F O R S	40周年記念事業
基本財産運用収入	22,561	22,561	0	0	0
入会金収入	198,600	198,600	0	0	0
会費収入	78,175,200	53,075,200	0	0	25,100,000
事業収入	17,195,460	17,061,460	134,000	0	0
参加費収入	12,980,683	0	1,862,603	11,118,080	0
寄付金収入	2,300,000	2,300,000	0	0	0
その他収入	8,026,956	8,023,603	2,251	553	549
当期収入合計	118,899,460	80,681,424	1,998,854	11,118,633	25,100,549
前期繰越収支差額	22,685,673	19,419,987	2,166,529	1,099,157	0
収入合計	141,585,133	100,101,411	4,165,383	12,217,790	25,100,549
2 支出の部					
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計		
			数理計画法研究会	I F O R S	40周年記念事業
管理費	32,619,257	27,429,691	2,369	694,594	4,492,603
事業費	86,615,604	53,113,387	2,663,791	10,230,480	20,607,946
当期支出合計	119,234,861	80,543,078	2,666,160	10,925,074	25,100,549
当期収支差額	△ 335,401	138,346	△ 667,306	193,559	0
次期繰越収支差額	22,350,272	19,558,333	1,499,223	1,292,716	0
支出合計	141,585,133	100,101,411	4,165,383	12,217,790	25,100,549

(以下略)

## 平成9年度事業計画 (第3号議案)

本学会創立以来40年が経過し、21世紀の到来も目前に迫り、世界の社会・経済情勢は大きく変化を続けている。急速なマルチメディアの発達に伴い、これまで夢想もできなかった高度な情報環境が実現しようとしている。本学会は、このような環境変化を踏まえて新しいオペレーションズ・リサーチを切り拓いて行かなければならない。

学会の運営にあたっては、変化する時代の環境に的確にしかも迅速に対応をすると共に、オペレーションズ・リサーチを支える実践活動と理論的研究活動をバランスよく推進していく。また、創立40周年を迎えた本年度は、各種の記念事業を推進するとともに、中長期的な視点からもオペレーションズ・リサーチの基盤強化のための施策を展開していく。

平成9年度における事業計画の概要は以下の通りである。

### 1. 研究発表会

研究発表会を春秋2回開催する。

#### (1) 春季研究発表会

期 日：4月2日、3日(見学会は4日)

場 所：九州大学(福岡県)

特別テーマ：ゆとりある都市生活とOR

#### (2) 秋季研究発表会

期 日：9月10日、11日(見学会は12日)

場 所：東京経済大学(東京都国分寺市)

特別テーマ：～21世紀の社会変革を担う～ コミュニケーション・ルネサンスとOR

### 2. シンポジウム

シンポジウムは定例的に年2回開催する。

#### (1) 第37回シンポジウム

期 日：4月1日

場 所：九州大学(福岡県)

テーマ：地域活性化の新しい流れと展望

#### (2) 第38回シンポジウム

期 日：9月9日

場 所：東京経済大学(東京都国分寺市)

テーマ：コミュニケーション・ルネサンスとOR—バーチャルリアリティと社会—

### 3. 特設研究部会(数理計画法研究会)

(主査：茨木俊秀(京都大学) 幹事：田口 東(中央大学)、森戸晋(早稲田大学)、矢部 博(東京理科大学)、山本芳嗣(筑波大学)、福島雅夫(京都大学)、石井博昭(大阪大学)、加藤直樹(神戸商科大学)、茨木 智(京都大学)、メンバー：30名)月例研究会、RAMPセミナー(春 名古屋)、RAMPシンポジウム(秋 広島)等の開催を通じて、数理計画法理論、応用、ソフト開発等に関する研究普及活動を行う。また、会の運営にあたっては、若手研究者の育成のため、特別な配慮を行う。

## 4. 研究部会・研究グループ

### (1) 研究部会

次の14研究部会を設置し、年度途中で地方、若手交流、緊急性が高いものなどについては予算限度内において追加発足を認める。

#### ア. 常設(2研究部会)

「待ち行列」 主査：町原 文明(東京電機大学)

「OR/MSとシステム・マネジメント」 主査：太田 敏澄(電気通信大学)

#### イ. 継続(9研究部会)

「離散系シミュレーション」 主査：中野 一夫(櫛構造計画研究所)

「高校生のためのOR」 主査：若山 邦紘(法政大学)

「COMのための生産計画・スケジューリング」 主査：村松 健児(東海大学)

「広域インフラストラクチャー計画に関するOR」 主査：高森 寛(青山学院大学)

「最適化理論とその応用」 主査：石井 博昭(大阪大学)

「マーケティング・モデル」 主査：守口 剛(勤流通経済研究所)

「オープンネットワークと情報活用」 主査：勅使河原可海(創価大学)

「グローバル政策」 主査：片山 隆仁(防衛庁)

「ファジィ動的計画法」 主査：小田中敏男(北海道情報大学)

#### ウ. 新設(3研究部会)

「理財工学」 主査：白川 浩(東京工業大学)

「システムの最適化とOR」 主査：久志本茂(金沢大学)

「エネルギー産業のOR」 主査：長谷川淳(北海道大学)

### (2) 研究グループ

8研究グループを設置する。年度途中で追加発足も積極的に認め、活動実績と研究成果が高いものは次年度に研究部会に昇格させる。

#### ア. 継続(5研究グループ)

「高度情報化社会における交通・流通」 主査：八戸 英夫(工学院大学)

「イノベーション」 主査：上田亀之助(上田イノベーション研究所)

「組合せ最適化」 主査：片岡 靖詞(防衛大学校)

「ORソフトウェア」 主査：八巻 直一(静岡大学)

「環境問題」 主査：小池 清(キックス絵研)

#### イ. 新設(3研究グループ)

「都市のOR」 主査：腰塚 武志(筑波大学)

「ORリテラシー」 主査：高井 英造(静岡大学)

「評価のOR」 主査：上田 徹(成蹊大学)

## 5. 普及活動、会員増強活動

本年度は、各種行事を通じ会員の増強を図るべく普及活動により一層努めることとし、以下のような活動を行うこととする。

(1) 研究意欲の増進、最新知識情報の吸収を意図し講演会開催の積極化を図る。(支部6回)

(2) 学会の役割を内外にアピールするという広報活動の一環として、また事業としての位置づけに配慮したORセミナー(講

習会)を1回開催する。

- (3) 賛助会員の増強を図ると共に支部活動の活性化に寄与するため、OR企業サロンを開催する。(本部4回および地方支部共催4回)
- (4) 賛助会員の増強を図ると共に、企業内でのOR実施例に対する社会の認知を高めるため、企業事例交流会を1回開催する。

## 6. 刊行物

次の刊行物を発行する。

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」(12号)
- (2) 論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(4号)
- (3) 研究発表会アブストラクト集(2回)
- (4) シンポジウム予稿集(2回)・セミナー テキスト
- (5) 研究部会活動結果の報文集等

## 7. 日本学術会議および他学協会との連携・協力

- (1) 日本学術会議経営工学研究連絡委員会に委員を派遣し、その活動に参画する。
- (2) 経営工学関連学会協議会(FMES)に代議員を派遣し、その活動に参画する。(以下略)

## 8. 公益活動

官公庁、財団等の公的機関からの委託研究を積極的に受託するように努めるほか、高校生・一般市民に対するORの啓蒙活動を推進する。

## 9. 40周年記念事業

以下のような創立40周年記念事業計画を策定し、今後数年にわたりその推進に努めるものとする。

- (1) 6月2日(月)東京・経団連会館において記念式典およびシンポジウム—ORの新潮流—特別講演会—21世紀の経営とOR—を開催し、併せて「学会長期ビジョンについて」の報告を行う。なお、シンポジウム・特別講演会は、東京のほか学会支部のある各都市で開催する。  
6月3日(火)東京ガス会議室においてセミナー(ORの新潮流—ORはどう役に立つ—)を開催する。
- (2) 国際交流の一環として、若手研究者への海外渡航助成や優れた海外若手研究者の招聘費用の支援などを行う。
- (3) ORに係る懸賞記念論文の募集、記念出版、特別研究・教育プロジェクトなどに対し助成を行う。(以下略)

## 10. 国際協力・交流

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies)を通じて、各国のOR学会との交流、協力を図る。
- (2) APORS (Association of Asian - Pacific Operational

Research Societies)を通じて、特に第3回国際会議(1994年7月・福岡)を開催した学会として、また、副会長選出学会としてアジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会間の情報交換に積極的に協力する。

- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research)の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORの国内頒布に協力する。
- (4) APJOR (Asia - Pacific Journal of Operational Research)の編集、発行、頒布に積極的に協力をする。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research)の編集、頒布に協力をする。(以下略)

## 10. 支部活動

各支部において、研究会、講演会、見学会等を企画し実施するほか、会員対策についても配慮する。

## 11. 表彰

文献賞、実施賞、普及賞、事例研究奨励賞(ソフトウェア部門賞を含む)および学生論文賞の選考・表彰を行う。

## 12. その他

財政基盤の安定化に努めると共に、事務局のOA化に配慮する。

### (第5号議案)

#### 平成9年度10年度役員候補者名簿

会務役職	定数	候補者	備考(非改選役員)
会長	1(0)		刀根 薫
副会長	3(2)	小金澤 章吾 今野 浩	山田 郁夫
庶務	2(1)	上田 徹	香田 正人
国際	1(1)	高橋 幸雄	
研究普及	2(2)	中森 眞理雄 前田忠昭(9年度のみ)	
編集	2(1)	大山 達雄	川島 幸之助
会計	1(0)		山口 俊和
無任所	4(1)	石川 明彦	生駒 憲治
"			黒田 充
"			松山 久義
監事	2(1)	岡本 行二	矢島 敬二

( )内は平成9年度改選数

### (第6号議案)

#### 名誉会員推薦の件

被推薦者氏名

村井 勉

(前OR学会会長・西日本旅客鉄道(株)・アサヒビール(株)名誉会長)



平成9年度収支予算書

(第4号議案)

収支予算書総括表

平成9年3月1日から平成10年2月28日まで

(単位：円)

1 収入の部				
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計	
			数理計画法研究会	40周年記念事業
基本財産運用収入	22,000	22,000	0	0
入会金収入	192,000	192,000	0	0
会費収入	77,700,000	49,200,000	0	28,500,000
事業収入	19,290,000	16,870,000	1,820,000	600,000
その他収入	41,781,585	20,152,000	200	21,629,385
当期収入合計	138,985,585	86,436,000	1,820,200	50,729,385
前期繰越収支差額	21,057,556	19,558,333	1,499,223	0
収入合計	160,043,141	105,994,333	3,319,423	50,729,385
2 支出の部				
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計	
			数理計画法研究会	40周年記念事業
管理費	35,267,500	30,390,000	1,500	4,876,000
事業費	104,329,385	56,046,000	2,430,000	45,853,385
当期支出合計	139,596,885	86,436,000	2,431,500	50,729,385
当期収支差額	△ 611,300	0	△ 611,300	0
次期繰越収支差額	20,446,256	19,558,333	887,923	0
支出合計	160,043,141	105,994,333	3,319,423	50,729,385

(以下略)

秋季研究発表会 (於東京経済大学) 実行委員会からのご案内

—ソフトウェア紹介展示会の開催—

今回の研究発表会の特別テーマ「コミュニケーション・ルネサンスとOR」にちなんで、OR/MSの分野で有用度の高いと思われるソフトウェアのいくつかを、関心のある学会員の皆様に紹介する催しを準備いたしました。

この催しでは、製品の機能を具体的に紹介し発表していただくように出展者各位の協力をお願いしております。この紹介発表は、研究発表のプログラムと抵触のないように昼休みの時間に行いますので、紹介されるソフトウェアにご関心のある学会員の方々は、ぜひご出席ください。

紹介展示される予定は9月10日・11日それぞれ昼休みです。この時間以外にも製品の展示は会期中行われておりますので、そちらの方もご利用ください。

実行委員長 棚橋啓世

学会事務局夏期休暇のお知らせ

8月4日(月)～8日(金)